

令和6年度
下塚田ふるさと応援隊
農村RMO事業に係る
集中研修会

次第・資料

期日：令和6年10月19日（土）

時間：13：00～17：00

場所：下塚田自治公民館



農村RMO集中研修会 次第

出席者 会員14名/17名

行政関係 2名

サポーター 4名

提案者 5名

- 13:00~13:01 開式宣言
- 13:01~13:05 会長挨拶 作本真悟
- 13:05~13:10 集中研修会開催の主旨及び次第説明 (事務局)
- 13:10~13:20 農村RMO概要及び現状について →資料 1-1~1-4
宮崎県 農政水産部 農政企画課
中山間農業振興室 中山間活性化担当 室屋裕花様
- 13:20~13:25 日南市農政課 課長補佐 日高賢二様
- 13:25~13:30 令和6年度の事業計画及び事業費内訳について →資料 2-1~2-2
- 13:30~13:35 令和6年度の事業計画に基づく活動報告について →資料 3-1~3-2
- 13:35~13:40 「農村情報通信環境整備対策事業」について
デジタル技術活用取組として事業導入の経過 →資料 4-1~2-2
- 13:40~14:40 「農村情報通信環境整備対策事業」について
富士通Japan株式会社 CPS&Retail事業本部
農水ビジネス事業部 農水ソリューションビジネス推進部
砂子幸二様 →資料 5
- 質疑応答
- 13:40~14:50 休憩 (10分間)
- 14:50~15:50 農村RMOビジョン策定について
「共に未来へ繋げる“無限集落”の実現！」
株式会社アルデバラン 代表取締役 国貞憲太郎様 →資料 6
- 質疑応答
- 15:50~16:00 休憩 (10分間)
- 16:00~17:00 農村RMOビジョン策定等に関して提案&アドバイス
宮崎県農村RMO伴走支援業務受託者 (サポーター)
株式会社ことろど LPM事業部 神原帆乃花様
「これから下塚田(かんぼらほのか)で生まれること！」 →資料 7
- 質疑応答
- 17:00~17:05 講評 宮崎県中山間活性化担当 室屋裕花様
- 17:05~ 挨拶・閉式宣言 田上吉美副会長

農村型地域運営組織（農村RMO）とは

農村型地域運営組織（農村RMO：Region Management Organization）とは、複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のことです。なお、農村型地域運営組織（農村RMO）は、地域運営組織（RMO）※の一形態と整理しています。

※地域運営組織（RMO）・・・地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。（総務省HPより）



農村RMOの必要性

中山間地域等の条件不利地域ほど高齢化・人口減少が顕著であり、特に、集落の総戸数が9戸以下になると、農地の保全等を含む集落活動の実施率が急激に低下する傾向にあるため、農業生産活動のみならず、地域資源（農地・水路等）の保全や生活（買い物・子育て）など集落維持に必要な機能の弱体化が危惧されます。

今後の人口動態を踏まえると、中山間地域での集落活動実施率は更に低下し、食料供給機能や多面的機能の維持・発揮に支障が生じる恐れがあるため、農家、非農家が一体となり様々な関係者と連携し、地域コミュニティの機能を維持・強化することが必要です。

中山間地域の保全国に向けた農村型地域運営組織（農村RMO）のイメージ

- 中山間地域等では、高齢化・人口減少の進行により、農業生産活動のみならず、地域資源（農地・水路等）の保全や生活環境（買い物・子育て等）など、集落維持に必要な取組を行う機能が弱体化。
- このため、地域コミュニティ機能の維持・強化に向けて、集落協定や農業法人など農業者を母体とした組織と、自治会、社会福祉協議会など多様な地域の関係者が連携して協議会を設立し、農用地保全や生活支援等を実施。

農村型地域運営組織（農村RMO）※1



※1 農村型地域運営組織（農村RMO）：Region Management Organization

複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織。

農村型地域運営組織（農村RMO）は、地域運営組織（RMO）※2の一形態と整理。

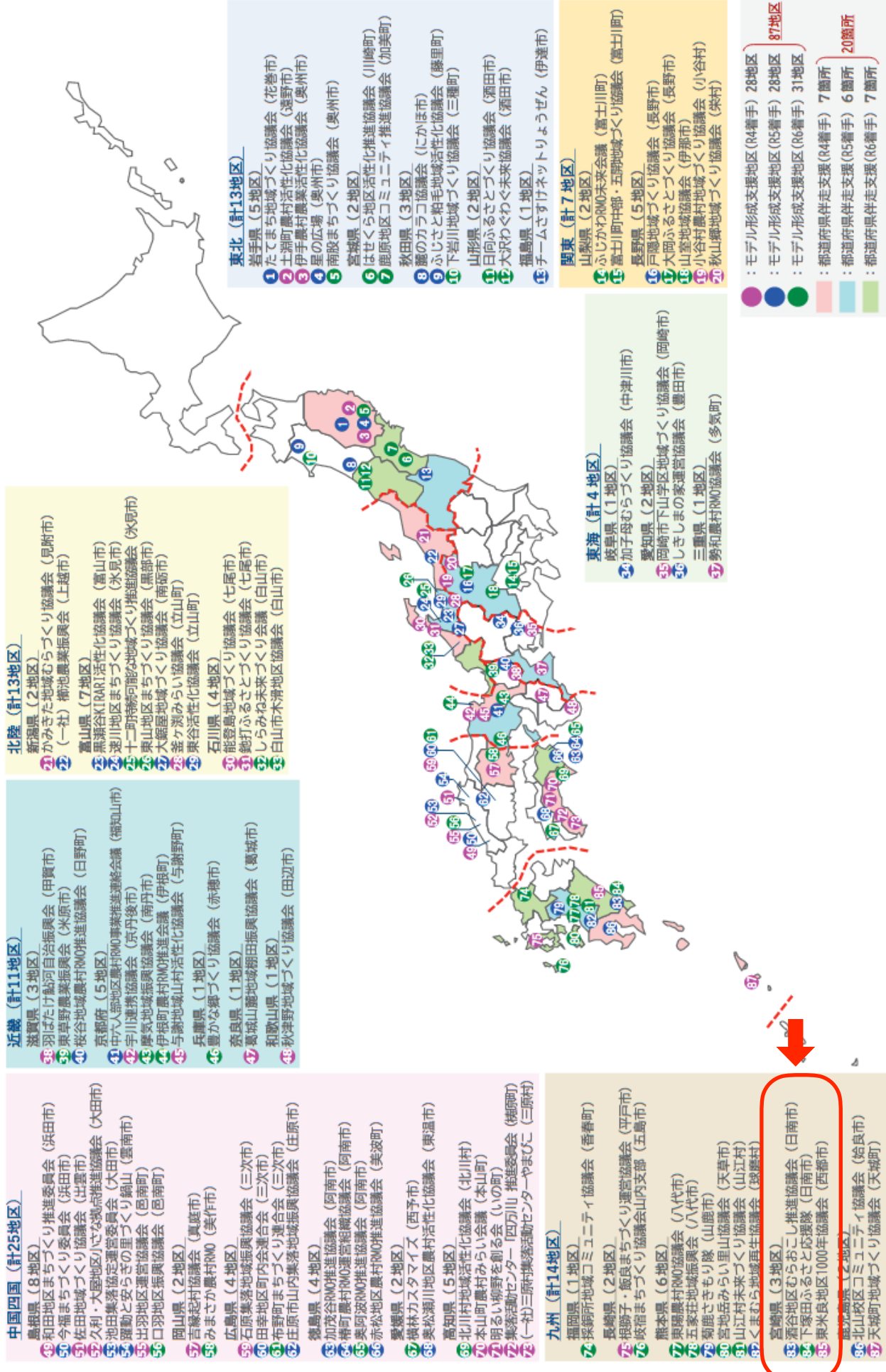
農林水産省では、令和4年度に「農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業」を創設し取組を推進。

※2 地域運営組織（RMO）

地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となり形成され、域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。【総務省HPより】

農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業 実施状況

令和6年10月時点



宮崎西都市

「東米良地区1000年協議会」

1000年続く循環型山村づくりへ。
NPO法人や社会福祉法人が連携

宮崎県西都市の山間部にある「東米良地区1000年協議会」は、自然や集落にデジタル技術を融合させた循環型の新しい山村づくりに取り組んでいます。住民の生活支援や介護予防を行う地域包括ケアシステムの構築や交通手段の確保、農用地保全、鳥獣害対策など幅広い活動を展開しています。

中山間地域等直接支払の継続をはじめとする集落支援を包括的に行うことを目的に社会福祉法人善仁会に設けた準備室を継続・発展させ、NPO法人東米良創生会を設立。同会が事務局を担う形で2022年4月に協議会が発足しました。東米良地域づくり協議会、西都市猟友会、銀上集落協定、農業生産法人株式会社かぐらの里、西都市などが1000年続く村の構築を目指し参画しています。

ボランティアの運転手による送迎事業が好評

地域の課題の一つが交通手段の確保です。主要道路を1日2回往復するコミュニティバス以外は自家用車で移動せざるを得ず、高齢者の利用は困難でした。そこで希望者宅から地域内目的地までの利用者の要望に応じたオンデマンドでの送迎事業を実施。2022年度の利用実績は延べ2,300人を超えました。

運営にあたっては、70歳以下のボランティアによる運転手32人を確保。運休日を設けず計3台の車両で稼働しています。利用者は前日の15時まで予約でき、1回50円から100円程度の安価な価格で利用できる仕組みとしました。専用予約システムの構築や車両の購入、安価な利用者負担を実現するために県や市が取り組む事業の補助金を活用しました。



活動の拠点となるのは、旧銀上小学校の廃校舎です。学校閉鎖後も、指定避難所として機能していましたが、電気や水道が利用できず、雨漏りがあり、利用に適さない環境でした。しかし、校舎のある地域は世帯数が多く、介護保険サービスの拠点としての活用も見込めることから善仁会が市から譲渡を受け、自己資金で改修を重ねました。

今後の目標としては、アプリ開発による農家や企業、猟師などの間での労働力の調整や、タブレット端末やカメラ、マイクなどを活用した遠隔無人直売所の開設、輸送用コンテナを活用した捕獲鳥獣処理加工施設の活用などに取り組む方針です。

「農村RMO集中研修会」開催の主旨

本日当下塚田ふるさと応援隊の「農村RMO集中研修会」に於いて根拠となっている、令和6年度の事業計画については、下記の通りで申請してあります。

令和6年度の事業計画に基づき、事業項目「デジタル技術活用」に関しては、

13:40~14:40 「農村情報通信環境整備対策事業」 富士通Japan株式会社

CPS&Retail事業本部 農水ビジネス事業部 農水ソリューション
ビジネス推進部 砂子幸二様にお問い合わせしてあります。

次に、事業項目「ビジョン策定」に関しては、

14:50~15:50 農村RMOビジョン策定について

「共に未来へ繋げる“無限集落”の実現！」

株式会社アルデバラン 代表取締役 国貞憲太郎様

16:00~17:00 農村RMOビジョン策定等に関して提案&アドバイス

「これから下塚田で生まれること！」

宮崎県農村RMO伴走支援業務受託者（サポーター）

株式会社ことろど LPM事業部 神原帆乃花様のお二人にお願
いしてあります。
(かんぼらほのか)

■ 令和6年度（初年度）の事業計画（取組の内容）

事業項目	取組内容
農用地保全	① 農業における省力化のためのデジタル技術の活用に向け、調査や計画策定に取り組む
ビジョンの策定 <input checked="" type="checkbox"/> 調査・計画策定 <input checked="" type="checkbox"/> 実証 <input type="checkbox"/>	① 新たな担い手確保の方法を検討 ① 耕作面積（水田・柑橘類）を維持するため、地域計画の話し合い等を通じて、担い手への集約や集落協定の広域化、圃場整備の検討を推進
デジタル技術活用 <input checked="" type="checkbox"/>	
地域資源活用	① 地域の攻めの特産品である柑橘類等の商品化・ブランド化に取り組むため、優良事例の調査や取り組み方針を検討
ビジョンの策定 <input checked="" type="checkbox"/> 調査・計画策定 <input checked="" type="checkbox"/> 実証 <input type="checkbox"/>	① 特産品である柑橘類の生産力向上のため、収穫時期の労働力確保を検討 ① 耕作以外の草刈りや水路の管理、景観維持等の持続可能な運営体制を検討
デジタル技術活用 <input checked="" type="checkbox"/>	
生活支援	① 優良事例の視察・調査等を行い、下塚田地区における自治会活動等の持続可能な実施方法や運営体制の構築を検討
ビジョンの策定 <input checked="" type="checkbox"/> 調査・計画策定 <input type="checkbox"/> 実証 <input type="checkbox"/>	① 交通手段を確保し地域内に住み続けられるよう、活用可能な他の事業を調査・検討
デジタル技術活用 <input type="checkbox"/>	

(資料2-2)

令和6年度事業計画に基づく「事業費内訳」は、下記の通りで申請してあります。

取組内容	事業費内訳				参加者及び担当者
	費目	細目	事業費 (千円)	積算根拠等	
1 ビジョン策定	委託費		500	ビジョン資料制作業務委託 1式	日高新次、荒武和正、日高康文
	旅費	調査等旅費	222	旅費 広島県呉市瀬戸田地区・徳島県上勝町 74,000X3人=222,000円	
	委託費		412	制作業務委託 1式	
	旅費	調査等旅費	222	旅費 中央研修会・フォーラム等 74,000X3人=222,000円	
	小計		1,356		
2 農用地保全	消耗品費		400	その他通信運搬費印、刷製本費、雑役務費、その他経費含む	作本眞悟、大野隆男、田上勝紀
	旅費	調査等旅費	444	先進地視察等(農用地・地域資源) 74,000X3人X2回=444,000円	
	委託費		300	計画策定に係る資料作成委託 1式	
	小計		1,144		
	消耗品費		0	(農用地保全と併せて実施)	
3 地域資源活用	旅費	調査等旅費	100	シッテ米栽培等に関する調査及び研修等	作本眞悟
	依託費		700	シッテ米試験栽培及び研修等	作本眞悟
	依託費		100	スライドモアによる圃場及び京阪等の草刈り作業	大野隆男
	委託費		100	計画策定に係る資料作成委託 1式	
	小計		1,000		
4 生活支援	消耗品費		100	その他通信運搬費、印刷製本費、雑役務費、その他経費含む	
	委託費		300	企画運営・調査業務委託 1式等	
	委託費		100	制作業務委託 1式	
	小計		500		
	計		4,000		

■ 令和6年度事業計画に基づくビジョン策定に向けて

下塚田ふるさと応援隊に於ける本日開催の「農村RMO集中研修会」の根拠となっている、令和6年度の事業計画については、前記「資料2-1~2」の通りです。

令和6年度の事業計画に基づき、事業項目「**ビジョン策定**」「**調査**」「**デジタル技術活用**」に関して、各取組状況は下記の通りです。

■ 令和6年度事業計画に基づく各事業取組の詳細

● ビジョン策定

- 2024/07/12 宮崎県農村RMO伴走支援業務委託者決定 株式会社ことろど
- 2024/07/12 東京デザインチーム来南 プレゼン
- 2024/08/01 本年度事業推進についての打ち合わせ 県 株式会社ことろど
- 2024/08/04 第1回臨時総会 第8号議案で審議
ビジョン策定 キャッチコピー創出 ロゴ策定
- 2024/08/20~21 農村RMO中央研修会（東京）
- 2024/09/23 農村RMOビジョン策定等研修会（宮崎）
講師：アルデバラン株式会社 代表取締役國憲太郎
- 2024/10/09 伴走支援サポーター（株式会社ことろど）との協議

● 調査

- 2024/08/19 株式会社スミフルジャパン
新宿みやざき館KONNE
- 2024/09/08~10 広島県呉市瀬戸田 広島レモン
徳島県上勝町 葉っぱビジネス関連

● デジタル技術活用

- 2024.06.17 九州農政局地域整備課中山間整備係堤祐介様
農業農村情報通言環境備準備会個別地区支援申し込み
- 2024/07/17 個別地区支援申し込み オンラインTeams会議 プレゼン
- 2024/08/27 個別支援地区への支援体制
 - ▷とりまとめ役 富士通Japan株式会社
 - ▷サポート役
株式会社インターネットイニシアティブ
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
地域BWA推進協議会
- 2024/10/04 第1回セミナー開催 果栽培における収益性向上オンラインTeams会議
『地域で取り組むICT化による収益性向上』（愛媛県） 真穴共選様
- 2024/09/18 農林水産省農村振興局 整備部 地域整備課
農村資源利活用推進班 技術係長市橋誠様よりメール連絡

農林水産省では令和6年5月に「食料・農業・農村基本法」が改正され、その方向に即して同年6月「スマート農業技術活用促進法」が成立・交付され、10月に施行が予定されています。

今後、同法に基づきスマート農業実装のための取組への支援措置が講じられることとなります。

■ (2024年8月4日の臨時総会で協議) 「農村RMO」に於ける「ビジョン策定」

「農村RMO」(伴走支援)事業の初年度に行う重要な作業が、「ビジョン策定」です。地域の「ビジョンの策定」は、その地域が将来どのような姿を目指すかを明確にするプロセスです。

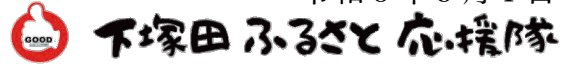
- 1 現状分析と調査：
 - ・地域の歴史、文化、経済、社会的状況を調査し、現状を把握します。
 - ・組織や地域の強み、弱み、機会、脅威(SWOT分析)を明確にします。
 - ・市場や競争状況、顧客のニーズや期待を理解します。
- 2 住民や関係者の意見収集：
 - ・組織、地域住民、行政、企業、NPOなどのステークホルダーの意見や期待を収集します。
 - ・アンケート、ワークショップ、フォーカスグループなどの方法を用いて、幅広い意見を集めます。
 - ・幅広い視点を考慮し、ビジョンの策定に反映させます。
- 3 地域の価値観と使命の確認：
 - ・組織や地域が大切にしている価値観や使命(ミッション)を確認し、ビジョンに反映させます。
 - ・組織や地域の独自性やアイデンティティを明確にします。
- 4 将来像のビジョンを描く：
 - ・組織や地域が「こうありたい」という将来の理想像を幅広く集めます。
 - ・組織や地域が目指すべき将来像を具体的に描きます。
 - ・持続可能性、経済発展、社会的包摂、環境保護など、さまざまな要素を考慮します。
- 5 ビジョンの言語化：
 - ・組織や地域の将来像を簡潔かつ明確な言葉で表現します。
 - ・住民や関係者が共感しやすい形でビジョンを伝えることが重要です。
 - ・全てのステークホルダーに理解しやすい形で表現されているか確認します。
- 6 ビジョンの共有とフィードバック：
 - ・組織内外にビジョンを伝え、共有します。
 - ・組織及び地域全体がビジョンに共感し、それに向かって行動できるようにします。
 - ・策定したビジョンを組織及び地域全体で共有し、フィードバックを受け取ります。
 - ・住民の意見を反映し、ビジョンを調整・修正することも考慮します。
- 7 実行計画の策定：
 - ・ビジョンを達成するための戦略や目標、具体的なアクションプランを策定します。
 - ・進捗を評価するための指標や目標を設定します。
 - ・資源の配分、時間軸、責任者などを明確にします。
- 8 進捗のモニタリングと評価：
 - ・ビジョン達成に向けた進捗状況を定期的に評価します。
 - ・設定した目標に対する達成度を測定し、必要に応じて計画を修正します。
- 9 ビジョンの見直しと更新：
 - ・社会や経済、技術の変化、環境の変化や組織の成長に応じて、ビジョンを定期的に見直し、必要に応じて更新します。

広報第3号 (2024.09.01)

地区の皆様方へ

「キャッチコピー」を募集致します！

令和6年9月1日



下塚田ふるさと応援隊

会長 作本眞悟

台風一過の候！まだまだ暑い日々が続いておりますが、皆様恙無くお過ごしでしょうか？お見舞い申し上げます。

さて、「農村RMOモデル育成支援事業（令和6年度中山間地域活性化対策事業費補助金）」事業等に関し、当組織の臨時総会を8月4日（日）に開催し、初年度の事業についての承認を受け、事業をスタートしました。

初年度に行う重要な作業が、「ビジョン策定」です。地区の将来が「如何にあるべきか？」「如何にありたいか？」等々の『ビジョン』を策定し、2年度3年度の事業（「農用地保全」「地域資源活用」「生活支援」）を方向付ける必要があります。

そこで、『ビジョン』を策定するために、先ず「ビジョンタイトル」を決める必要があります。この事に関し、地区の皆様方のアイデアをお貸しください。

「ビジョン」の「キャッチコピー」を募集致します。

地域のキャッチコピーは、その地域の魅力や目指す方向性を端的に伝えるものです。いくつかの例を挙げますので、参考にしてください。気に入ったものがあれば○印をつけてください。

1. 「みんなの笑顔が集まる場所」
2. 「自然と歴史が息づくまち」
3. 「未来を育む、安心のふるさと」
4. 「絆が深まる、心のふれあい」
5. 「新たな発見が待つ、魅力あふれる地域」
6. 「共に創る、希望のまち」
7. 「自然美と暮らしが調和する場所」
8. 「地域の力で未来をつくる」
9. 「あたたかさが広がるまち」
10. 「伝統と未来が交差する場所」
11. 「笑顔あふれる下ん塚田（シモンツカダ）」
12. 「みんないい顔！下ん塚田」

農業農村情報通信環境整備準備会
「個別地区支援説明会」プレゼン資料

農業農村情報通信環境整備準備会

開始までしばらくお待ちください。

個別地区支援説明会

2024年7月17日(水)

13:00-13:05 開催挨拶(農林水産省 地域整備課)

13:05-13:35 兵庫県 加東市役所

13:45-14:15 宮崎県 下塚田ふるさと応援隊

14:15-14:20 農林水産省

個別地区支援の「とりまとめ役」について

オンラインTeams会議

2024年7月17日(水)

農業農村における情報通環境整備の必要性

人口減少や少子高齢化、農業担い手減少といった社会課題を解決し、地域を活性化するには、デジタル技術が鍵であり、農業農村地域の課題解決と持続的発展に向けてICT（情報通信技術）の活用とその基盤となる無線基地局等の情報通環境備が重要性を増しています。

ICT（情報通信技術）を活用して、果樹園地の給水施設や国場の農業水利施設などの農業農村インフラの理の省力化・高度化やスマート農業の実装を図るとともに、地域活性化を促進するため、情報通環境の備が待たれます。

農業農村地域において、情報通環境の整備を推進するため、「農業農村情報通環境整備準備会」が設置され、各組織への技術的なサポートなどの活動が行われています。

農業農村情報通信環境整備 準備会とは？

農業農村における情報通信環境の整備を官民で連携して推進するための体制の構築に向け、農林水産省が、「農業農村情報通信環境整備準備会」を設置しました。

準備会メンバー（サポート会員：132団体）からなる支援チームにより、基本方針の検討、体制整備、調査・計画策定等に関するサポートを行っています。

②個別地区支援

支援の概要

- ユーザー会員の中から支援を受けたい団体を募集し、支援を実施。
- 支援にあたっては、各地区の課題や取組の方向性を踏まえ、地区ごとにサポート会員から適切なメンバー（とりまとめ役、サポート企業、先進地区等）を選定。

個別地区

方針検討、推進体制、概略構想づくりなどに対するサポート

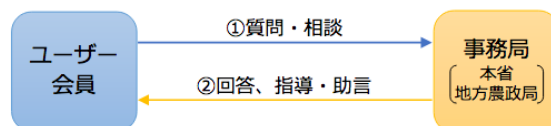
支援チーム

※ 対象地区の課題や取組の方向性を踏まえ、サポート会員から適切なメンバーを選出

支援の流れ

■事業申請支援

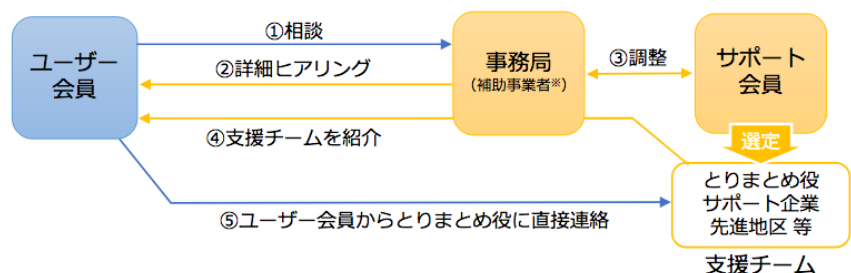
事業の内容、実施要件、申請方法等について質問・相談に対しては、農林水産省（本省、地方農政局）が窓口となり、質問への回答、計画書等の作成の指導・助言等を行う。



■方針検討、推進体制、概略構想づくり支援（事業実施前）

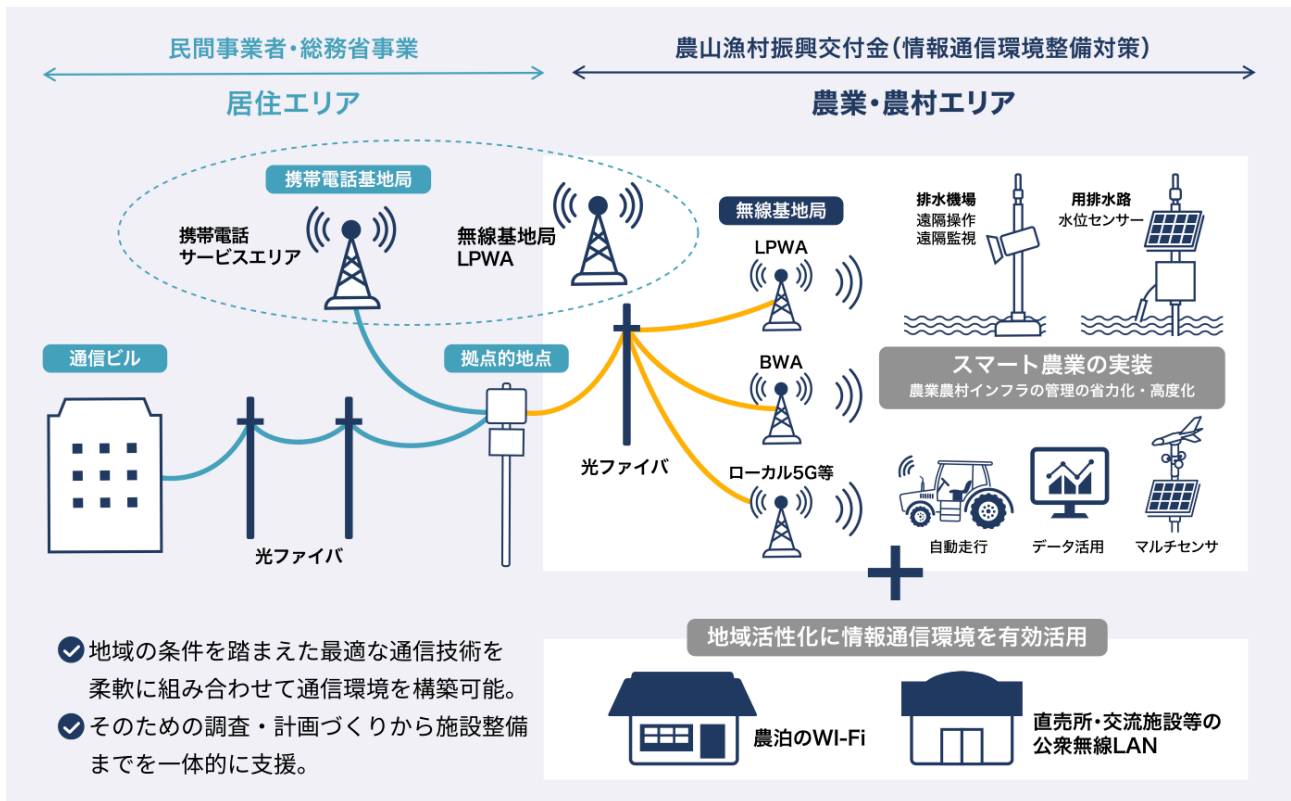
■先進地区・アドバイザー等紹介（事業実施中）

ユーザー会員からの相談受付後、事務局（補助事業者※）が詳細をヒアリングした上で、サポート会員と調整の上、相談内容に応じた適切なメンバー（とりまとめ役、サポート企業、先進地区等）を選出し、ユーザー会員に紹介。（紹介後は、ユーザー会員からとりまとめ役に直接連絡）



※準備会の共同運営等を行う計画策定促進事業の補助事業者

運用時のイメージ図



当地域が目指す情報通信環境整備とは？

ICT（情報通信技術）機器の中には携帯電話回線に直接つながって通信を行うことが可能なものもあります。この場合、別に無線基地局を設置しなくてもICT機器の導入のみで利用が可能です。しかし、！CT機器一つ一つに通費用がかかるため、導入する機器の数が多き場合には、自ら無線基地局を設置して自営のネットワークを構築することで通費用を抑えることが可能になります。

地域ごと導入機器数や通の範囲・速度・頻度などの条件を踏まえて適切な方法を選択することが大事です。「自営ネットワークの構築」を自から行う場合、無線局を導入する必要があります。初期コストは割高になりますが、無線局のみに通費用が発生（通費用は抑えられる）、ローカル5G等、一部周波数の申請を行う規格は、第三者が利用できないため、安定的な通を確保できる。調査研修検討の結果、半径1キロメートルの狭帯域でのまとまった範囲で多くのICT機器を導入する場合は、「自営ネットワークの構築」がベストであるとの結論に達しております。

(資料5)

「農村情報通信環境整備対策事業」について
富士通Japan株式会社 CPS & Retail事業本部
農水ビジネス事業部 農水ソリューションビジネス推進部

砂子幸二様

下記の本体資料は当日配布いたします。



本日のお打合せ内容について

FUJITSU

【次第】

1. ご挨拶と事業の概要について (10分)
 - ・ 情報通信環境整備対策事業の概要についてご紹介
2. キックオフ会議資料の説明 (20分)
3. 意見交換 (20分)
4. 今後の進め方、日程について (10分)

【主な協議事項】

1. 農業課題の整理について
 - ・ 解決すべき課題と優先順位について
2. 下塚田ふるさと応援隊様の通信状況について (キャリアのカバー状況)
 - ・ 現状の通信状況と情報通信環境整備のご報告と確認について
3. 今後の進め方(案)について
 - ・ サポート会議の開催時期と準備について
 - ・ 現地調査の場所と日程について
 - ・ 計画策定事業の申請について

◆ グランドデザイン案

【ビジョン】 共に未来へ繋げる“無限集落”の実現！

【ミッション】 3つの「C」

共感 (compassion) 、共生 (cohabitation) 、共同 (collaboration) を以て、
未来へ向け時代に適合した持続化集落の実現を目指す！

【ポリシー】

- ・高齢者が住み続けられる環境・体制整備と交流・定住人口の拡大等による地域
コミュニティを維持し、現在～未来に向け住み良い地区環境の改善に努める
- ・地域の攻めの特産品である 柑橘類の生産力・収益力向上を図り、現在～未来に
向け生活の質を高め、維持することに努める

【コアバリュー】

- ・スマート農村（持続化共同体の確立モデル）

【目的】

- ・農地用保全の持続可能な解消
- ・地域資源活用及び保全の持続可能な解消
- ・生活支援の持続可能な解消

【プロジェクト名称】 「スマート農村」ツナゲルプロジェクト

■現状と課題、対策方針

【現状と課題】 人口減少と高齢化により、地域における農業生産振興や自治会活動等の縮小が
懸念される状況 農用地保全・生産振興に関しては、担い手・後継者確保が喫緊の
課題

【対策方針】

- ・高齢者が住み続けられる環境・体制整備と交流・定住人口の拡大等による地域
コミュニティの維持を図る
- ・地域の攻めの特産品である 柑橘類の生産力・収益力向上を図る

■SWOT分析

【外部環境】

- ・機会→情報技術の進化、ネットワーク（SNS等）社会の進化、価値多様化、
グローバル化市場
- ・脅威→人口減少（転出超過、死亡者超過）、社会情勢の変化、産業構造の変化

【内部環境】

- ・強み→農産物生産体制完備、各種自立支援組織等の存在、個別販売実績、有益
資産（文化面）の保有
- ・弱み→知名度の低さ、高齢化（生産持続、地域参加持続への限界化）、人手不足、
人口減少（交流人口、定住者の見込み有無）、デジタルリテラシー問題

【分析】

- ・機会×強み 一点強化<付加価値向上<独自/特有存在<市場及び共感者の拡張可大
- ・機会×弱み デジタル強化（スマート化）<外部関係機会の増加<協力支援者の拡

張努力

- ・脅威×強み 差別化の強化<独自/特有存在の強化<時代適合化の促進
- ・脅威×弱み 分析検証力<内部組織強化<継続力<関係機会増加努力

■具体的改善方向案

(1) 農地用保全の持続可能な改善

- ・システム開発戦略→生産効率化（天候データ、品質管理等）、収支向上（黒字化）、集約化、省力化
- ・農業法人新規設立→市場拡大化、収益増加策、雇用促進化、圃場整備及び各関係支援機関、広域化連携

(2) 地域資源活用及び保全の持続可能な改善

- ・アウトバウンド戦略→収益拡大/認知度向上（マーケティング施策、ブランディングプラン化）
- ・インバウンド戦略→収益化/集客施策（イベント集客施策、空家再活用施策、交流定住者増加施策）

(3) 生活支援の持続可能な改善

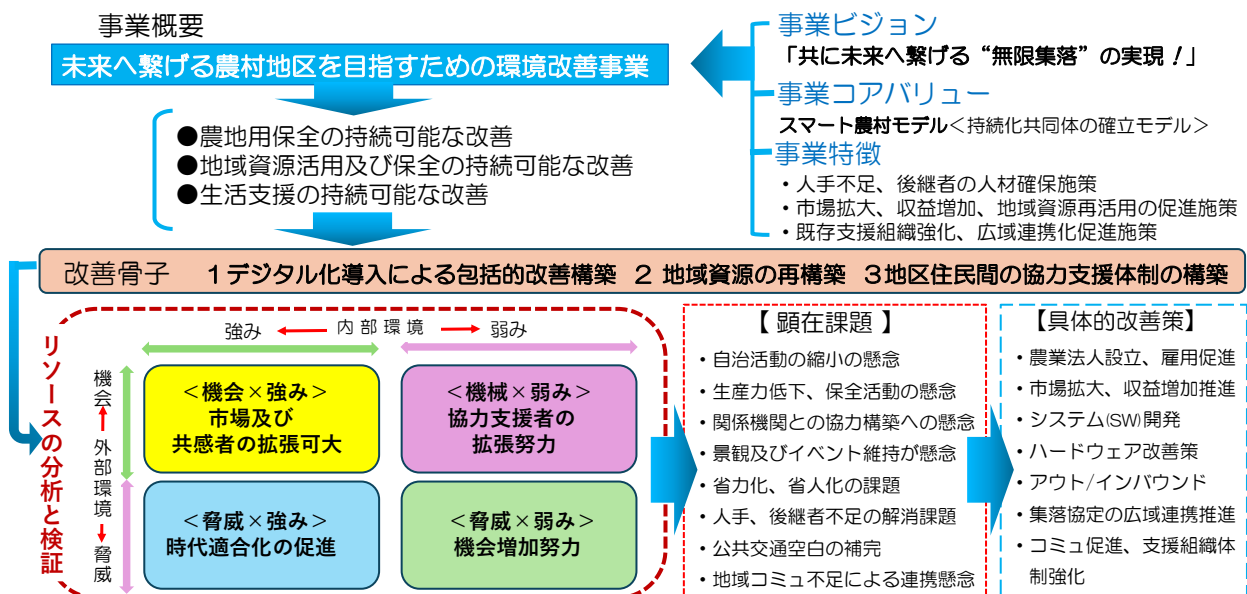
- ・公共交通空白の補完支援策→支援組織化の確立（共助＝区内支援者＋区外支援組織体制作り）
- ・文化継承策→共感者拡大施策戦略（特産品等、神社、各種イベント）
- ・住民間コミュ促進→コミュ増進戦略→安否確認、文化イベント（デジタル教室、時短料理、郷土料理開発、その他多数）

■タイムライン（3ヶ年事業計画スケジュール案）

【計画1期】 【計画2期】 【計画3期】

- ・システム開発 ・アウトバウンド実施 ・システム開発Ver
- ・農業法人新規確立 ・インバウンド実施 ・インバウンド実施Ver
- ・インバウンド策定 ・既存支援組織連携強化実施 ・ハードウェア改善実施Ver
- ・既存支援組織連携強化策定 ・ハードウェア改善実施
- ・ハードウェア改善策定

ー「農村RMO事業」 スマート農村 ツナゲルプロジェクト ー



(資料7)

株式会社ことろど LPM事業部 神原帆乃花様
(かんばらほのか)

下塚田ふるさと応援隊 集中研修会

発表内容(当日変更になる場合もございます)

- 1 株式会社ことろどの紹介
- 2 自己紹介
- 3 下塚田地区の人口ピラミッドの予測
- 4 事例紹介(和歌山県田辺市上秋津地区)
- 5 これからの下塚田で生まれること
- 6 “稼ぐ産業”と“つながる人々”
- 7 質疑応答

懇親会から
参加します！



株式会社ことろど
田鹿倫基 たじかともき

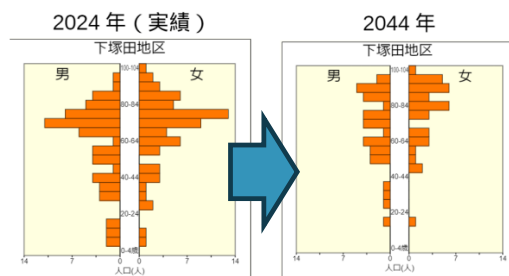
宮崎大学卒業後、リクルートに就職するも先輩と同期の優秀さにおののき退職を決意。その後中国の広告代理店で働くも、圧倒的グローバル競争環境に触れ退職を決意。その後、日南市マーケティング専門官として15社のIT企業を誘致し170名の雇用を創出、創業支援を行い約4億円の売上をつくることで転出超過を食い止めるものの、地元の方から油津商店街は失敗だったと言われ続けてへこむ。現在は移住ドラフト会議という壮大なコトをやったり、 Hostel を経営したり、求人サイトを運営したり、派遣会社をやったり、郵便局を運営したり、迷走街道を順調に突き進んでいる。



株式会社ことろど
神原帆乃花 かんばらほのか

高校生のときに将来は出身地の日南を盛り上げたいと決意し、県外の大学を辞め宮崎大学地域資源創成学部に進学。大学ではマーケティングを選考。卒業後はGMO NIKKO株式会社で大手企業のWebマーケティングを行い業績を伸ばす。インターネット×ふるさと を軸に日南にUターン。インターネットの知見を活かし、都市部在住の日南出身者がつながるサービスを担当したり、日南市の企業版ふるさと納税を推進するなど、活動は多岐にわたる。

下塚田地区の人口ピラミッドの予測



上秋津地区のみなさま



(補足資料)

下塚田地区の人口動態予測

(原典資料提供：株式会社ことろど)

年	2024		2029		2034		2039		2044		2049		2054	
合計	126		116		102		87		72		56		45	
減少率			0.92		0.81		0.69		0.57		0.44		0.36	
性別	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
歳	62	64	57	59	50	52	42	45	35	37	28	28	23	22
0～9	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19	4	1	2	1	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0
20～29	0	2	1	0	2	1	2	1	1	0	0	0	0	0
30～39	6	2	3	3	0	2	1	0	2	0	2	0	1	0
40～49	5	6	7	4	6	2	3	3	0	2	1	0	2	0
50～59	8	7	5	3	5	6	7	4	6	1	3	3	0	2
60～64	1	6	4	3	4	0	1	3	4	3	3	1	3	1
65～	36	43	32	43	31	40	27	33	21	27	19	23	17	17
高齢化率	0.58	0.67	0.56	0.73	0.62	0.77	0.64	0.73	0.60	0.73	0.68	0.82	0.74	0.77
65～	79		75		71		60		48		42		34	
高齢化率	0.63		0.65		0.70		0.69		0.67		0.75		0.76	
～80	51	47	43	35	30	25	24	21	23	16	18	11	14	12
	98		78		55		45		39		29		26	
80～	28		38		47		42		33		27		19	
出役戸数	35				17									

2034年度の出役可能戸数

No.	戸数	班名	氏名	備考欄
1	1	上大野	奥村	
2	5	下大野	竹井	
3			岩切	
4			田上	
5			塚田	
6			田上	
7	5	小峰	作本	
8			荒武	
9			作本	
10			作本	
11			作本	
12	4	東	日高	
13			金丸	
14			日高	
15			金山	
16	2	平畑	日高	
17			日高	
	17			

2024年度自治会会員数

会員総数 48 名
免除者数 13 名
出役者数 35 名